



身近な自然の観察・記録活動 石神井川緑道版

2023.8.10

一人ひとりの自主活動 だれでも参加できます

活動：月2回(第二木曜日・第四金曜日) (雨天は小雨でも中止)
問合せ・連絡先：090-8646-9757 木村松夫 com-matchan@hotmail.co.jp

2023年9月までの石神井川観察は、8/25(金)、9/14(木)、9/29(金)

9:30JR社宅(イーストハイム)前街路観察 10:00 帝京大学病院北側の御成橋から再出発

植物を飾り物としか位置付けない 考えがビッグモーターの「環境衛生」 ＝植物絶滅推進を許してきた

全国に店舗展開している中古車販売会社ビッグモーターは不正整備だけでなく、自店の前の公道の樹木も根こそぎ排除してしまったそうですが、これ、もう10年も前からの話。今回の不正営業が問題になるまで、行政は問題だとは感じていなかったようです。どうして??

ビッグモーターのみなさんは、街路の下草は景観を不潔にするものに見えたし、植栽された樹木は飾り物かモニュメントのひとつだとしか見てこなかったのでしょう。それが茂っていると邪魔になって「環境衛生」上よくないから排除するのは当然だと考えてきたのに対して、行政もまた、もしかしたら樹木が取り払われてすっきりした、下草もなくなってきれいになったと感じていたかもしれません。まちなかの植物を「ただの物」としか見ていないのはわたしたち住民も同じ。花壇に植えられたきれいな花以外の植物を「雑草」「雑木」として嫌う社会一般の意識から抜け出せないのだから、行政はその意識に染まった街路樹管理をしてきたのかもしれない。

植物 = ~~生き物~~ = 飾り物 の考えはここにも現れる

さて、石神井川の新しく整備された遊歩道に植栽されたキンシバイ(下左)はこの猛暑下で完全に枯れてしまいました。ハナミズキ(下中)の枝の上の方で葉が枯れているのは水不足のせいです。下右のドウダンツツジの紅葉はきれいなものですが、これは水枯れ姿。

下草が無情に剥ぎ取られるのは以前からそうだからここでは問わないにしても、これらの植栽された樹木が満足に育たないのは、種の選択が適当でなかったほかに、土中に水分を蓄えるよう



な装置や仕組みを考えずに道路を整備したからです。彫刻などのモニュメントなら、設置した後は「枯れない」ので、時々、掃除をするだけで良いのですが、ここでは植物もモニュメント同様の掃除の対象としてしか扱われていない、その結果がこれなのです。

8/10の観察活動では、こんな状態が随所に見られました。「異常気象で土壌の乾燥が予想以上に進んだから」という言い訳は聞けません。

下の写真左**タニウツギ**は強剪定のせいで樹勢が衰えて新芽が枯れていました。右下の**ノイバラ**の枝先につく実はこれから赤くなって美しくなるというのに、これも強剪定で実がなくなりしました。植物の生き様を考えないで、ただ形を整えればよいというだけで植物管理をして



いるわけで、これは物の管理と同じです。しかも、かなり乱暴なやり方。
←園芸種のタイワンホトトギス。希少な植物ではありませんが、何年も前から生えていてこの場所になじんで、毎年それなりの花を付けていたのですが、8/10は根こそぎ刈り取られて、その場所が露地のスポットになっていました。

環境大変化の下、もっと謙虚に自然を見つめ直すべき

かつてない猛暑で、ただでさえ野草の勢いが衰えがち。真夏の花**ハキダメギク**は球形に変形↓



ノゲシも元気なし→
他方で、いままで見られなかった植物が続出てきたり、自然条件そのものが大きく変化しています。だからこそ、もっと謙虚に自然を見つめていくべきでは・・・。

